assists your "thinking"

Qualtec



2027年6月期 第1四半期決算説明資料

株式会社クオルテック【証券コード：9165】

Highlights

01 当第1四半期累計期間の売上高は、前年同期比5.2%成長の1,031百万円。
信頼性評価事業は、分析・解析において半導体関連の案件受注が好調に推移、パワーサイクル試験において長期案件の受注等が好調に推移したことにより、前年同期比3.2%増収。
微細加工事業は、レーザ加工において通信関連の試作品加工が増加、量産品加工においても堅調に推移、表面処理技術において、素材関連の案件受注が業績に寄与したことにより、前年同期比15.0%増収。
その他事業は、販売案件の受注増加等により売上高が伸長したことにより、前年同期比+80.0%増収。

02 営業利益は、前期に引き続き成長戦略に向けた、研究開発の積極推進や拡販体制強化による費用増加はあったものの、売上高の増加により、前年同期比5.3%増益。

03 通期業績予想に関しては、当初業績予想を据え置き。上記の通り各事業とも案件需要は順調に推移しているものの、当社の業績に影響を与える地政学リスク等も潜在しております。

assists your "thinking"
Qualtec

目次

1｜決算概要
2｜セグメント別売上高
3｜営業利益増減内容
4｜四半期売上高推移
5｜その他経営数値
6｜通期業績予想
7｜1株当たり配当額と配当性向の推移
8｜Appendix

1. 決算概要

前年同期比増収増益で着地。
売上高は主に信頼性評価事業の案件需要が好調に推移したことにより＋50百万円増収。営業利益は研究開発費や人件費の増加はあるも、売上増加額がそれらを上回り+4百万円増益。経常利益は支払利息の増加はあるも、＋2百万円。四半期純利益は投資有価証券売却益+39百万円の計上により＋27百万円増益。

【単位：百万円】（　）内は売上高比

	26年6月期 1Q実績		27年6月期 1Q実績		前期差
売上高		980		1,031	+50
営業利益	(8.4%)	82	(8.4%)	87	+4
経常利益	(8.4%)	82	(8.3%)	85	+2
四半期純利益	(5.7%)	56	(8.1%)	83	+27

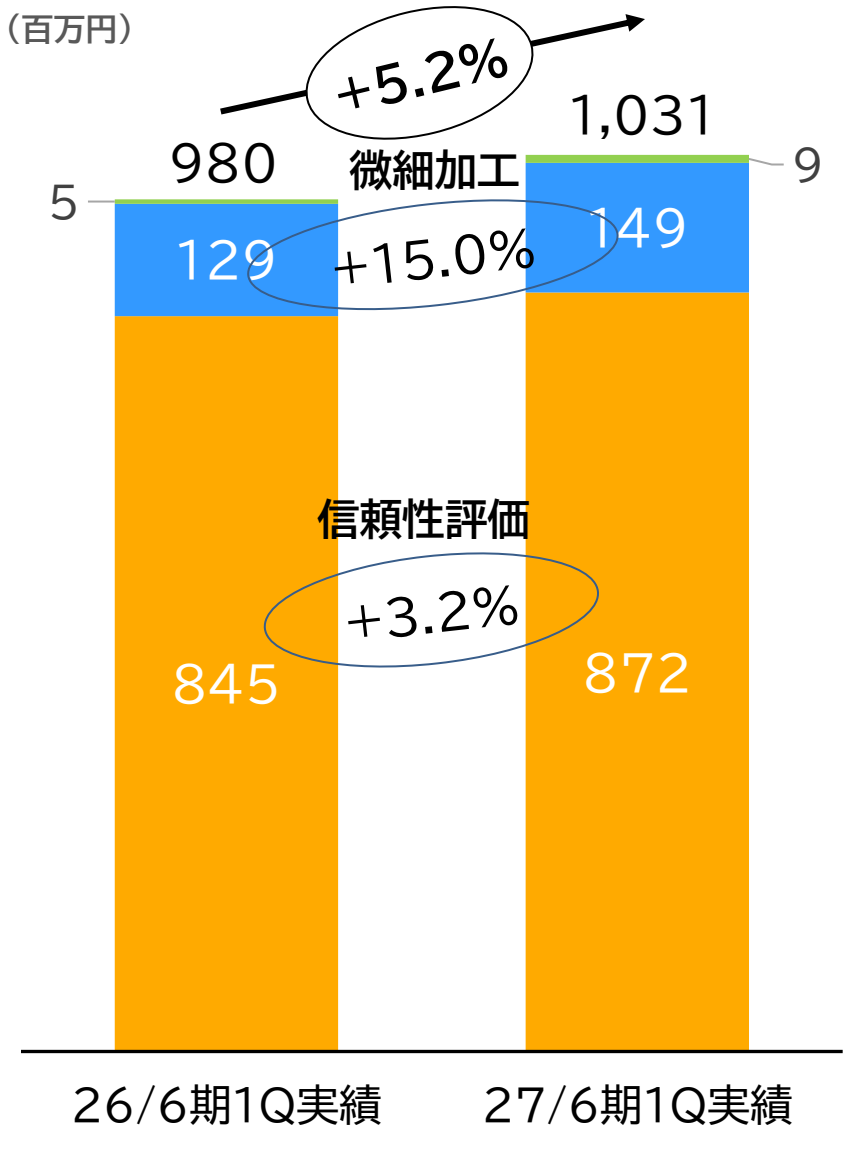
2.セグメント別売上高（対前年同期）

全社売上高は対前年同期比+5.2%、前期差＋50百万円増収。

信頼性評価事業は、分析・解析において半導体関連の案件受注が好調に推移。またパワーサイクル試験において長期案件の受注等が好調に推移したことにより、前年同期比+3.2%、前期差+27百万円増収。

微細加工事業は、レーザ加工において通信関連の試作品加工が増加、量産品加工においても堅調に推移。表面処理技術において、素材関連の案件受注が業績に寄与したことにより、前年同期比+15.0%、前期差＋19百万円増収。

その他事業は、販売案件の受注増加等により、前年同期比+80.0%、前期差+4百万円増収。



セグメント	成長率	コメント
信頼性評価	+3.2% ※	■ 信頼性試験：分析・解析の案件受注が好調 3.3%増収。 ■ 断面研磨：受注案件構成の変化により　▲4.2%減収。 ■ パワーサイクル試験：長期案件の受注好調16.9%増収。
微細加工	+15.0% ※	■ レーザ加工：試作品加工の案件受注が好調、量産品加工は堅調　10.1%増収。 ■ 表面処理技術：基板素材関連の案件受注が好調 27.5%増収。
その他	+80.0%	■ 販売案件の受注増加等により売上高増加。

※当第1四半期累計期間のセグメント情報を、前第1四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成した情報

3.営業利益増減内容（対前年同期）

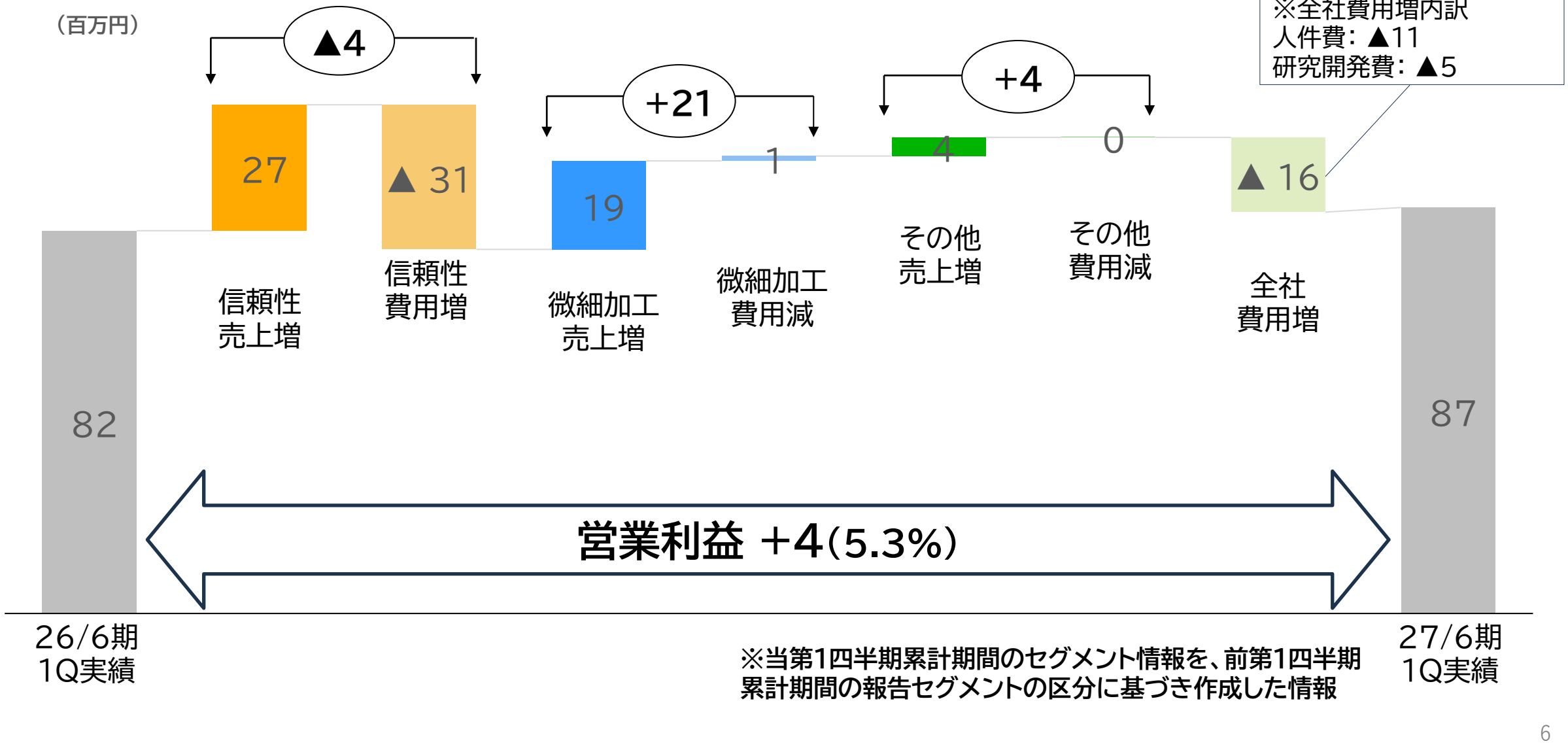
全社営業利益は対前年同期比＋4百万円増益。

信頼性評価事業は、長期案件等にかかわる費用増により、▲4百万円減益。

微細加工事業は、レーザ加工での通信関連の試作品加工や表面処理技術において素材関連の案件受注が好調に推移したことにより、+21百万円増益。

その他事業は、販売案件の受注増加等により、+4百万円増益。

全社共通部門は営業を中心とした拡販体制強化、研究開発の積極推進に伴う先行投資等により、▲16百万円の費用増。

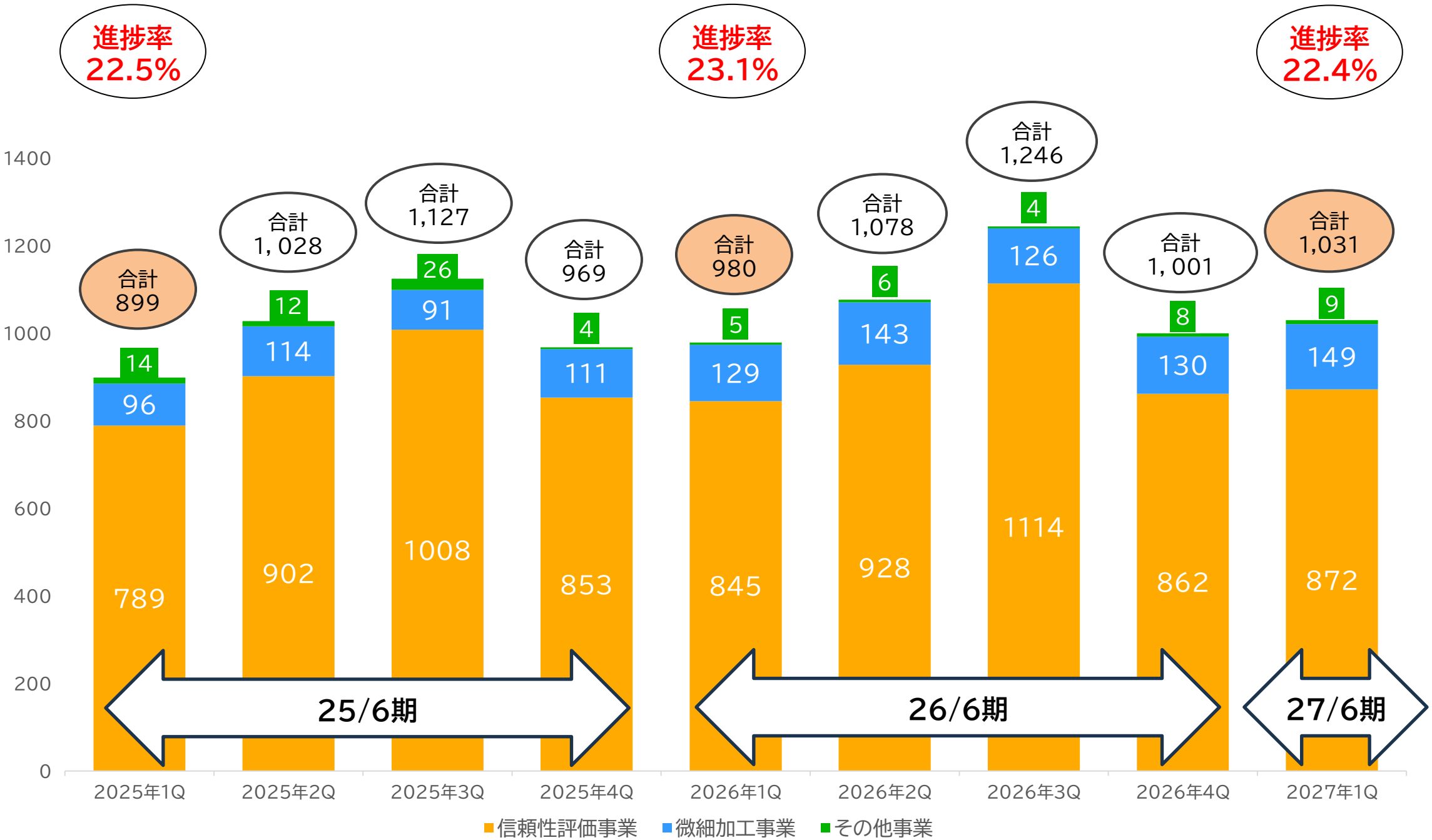


※当第1四半期累計期間のセグメント情報を、前第1四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成した情報

4.四半期売上高推移(セグメント別)

第1四半期としての最高額を更新(上場来3期連続全四半期にて更新継続中)

【単位:百万円】



5.その他経営数値(対前年同期)

その他経営数値の状況は下記の通り。

【単位:百万円】(　　)内は売上高比

	26年6月期 1Q実績		27年6月期 1Q実績		前期差
総資産		4,257		4,775	+518
純資産		3,246		3,548	+302
自己資本比率		76.2%		74.3%	▲1.9%
現預金残高		1,530		2,187	+657
設備投資		62		88	+25
研究開発費	(5.6%)	54	(5.9%)	60	+5
在籍人員(人)		260		260	±0

6.通期業績予想

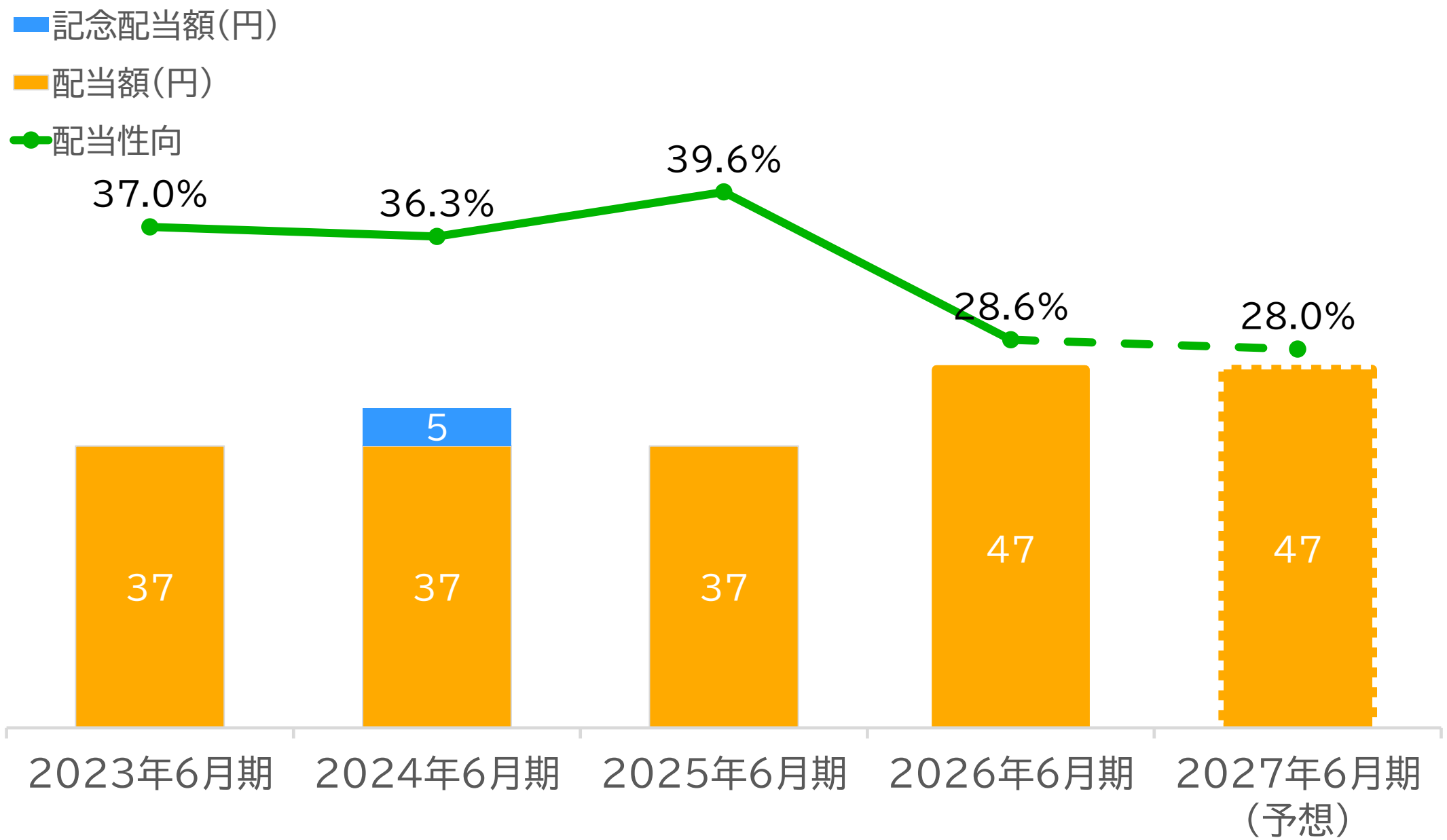
通期業績予想に関しては、当初業績予想を据え置き。
主要顧客である車載業界を中心に、信頼性評価事業での需要は堅調。また微細加工事業も好調な推移が予想されることから、引き続き増収増益を予想。ただし、米国関税リスクや中東情勢など地政学リスクも依然として潜在し、先行き不透明感は拭えない状況。

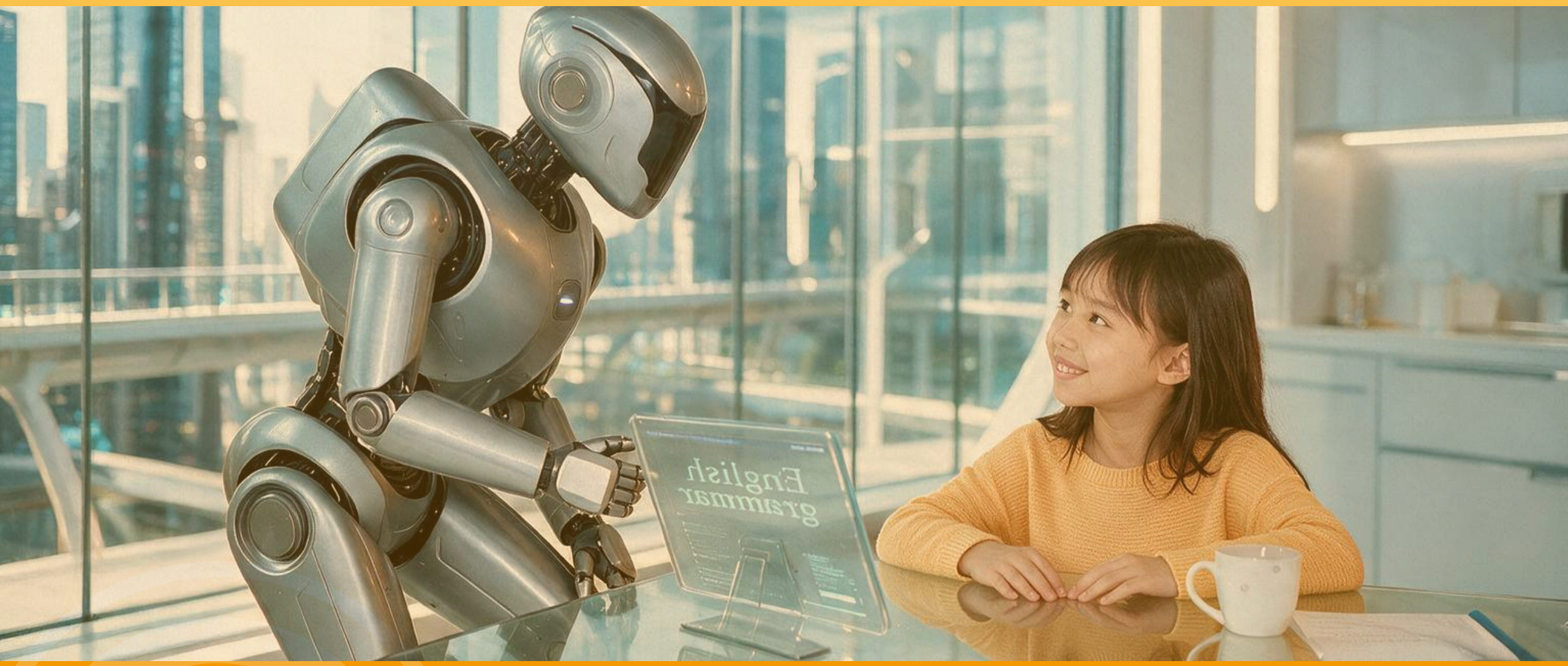
【単位:百万円】(　　)内は売上高比

	26年6月期 通期実績		27年6月期 通期業績予想 今回(11/13)		前期差
売上高		4,306		4,600	+294
営業利益	(11.3%)	489	(10.8%)	500	+11
経常利益	(11.7%)	505	(11.2%)	514	+9
当期純利益	(8.9%)	385	(8.6%)	395	+10

7.1株当たり配当額と配当性向の推移

第1四半期時点では、期初予想を据え置き。
株主還元方針として、従来通り設備投資や業容拡大の準備等に備え、内部留保を図りつつ安定的な配当に努める方針としつつ、期中業績状況に応じて決定。





8. Appendix

市場環境と事業機会

車載・半導体分野を中心に、技術開発需要は引き続き堅調。通信関連において、データセンター関連を含めた量産需要が増加

1. 市場環境・顧客ニーズ

自動車業界
- 電動化・省電力化の進展
- 車載電子部品の高性能化
- 高い信頼性要求の継続

半導体業界
- パワー半導体の需要堅調
- 高温・高電流への対応
- 次世代半導体開発の進展

成長需要・注目分野
- 通信関連需要の拡大
- 解析・観察需要の増加
- 試作・量産加工需要の増加

2. 当社の事業機会

信頼性評価事業
- パワーサイクル試験の需要増加
- 車載向け評価案件が増加
- FIB-SEMによる高付加価値案件の増加
- 振動・塩水シャワー・恒温槽等の環境試験の増加

微細加工事業
- データセンター関連を含む量産案件の増加
- レーザ加工の高付加価値試作加工の需要増加
  →量産受注への移行機会
- 表面処理技術での基板素材関連の試作品加工等の開発案件増加

車載・半導体・通信関連市場における技術開発需要を着実に取り込み、
事業機会の拡大につなげてまいります。

成長投資の進捗

技術・設備・人材への投資を通じて、中長期的な成長基盤を強化

研究開発費実績
60百万円

売上高研究開発費率 5.9%
目安とする5%以上を維持

- MAPプロジェクトの研究進捗
- AI活用画像解析アプリの開発
- 評価・解析技術の高度化
- 新たな試験技術の開発

設備投資確定額
659百万円
（うち設置・検収済み額 88百万円）

年間投資計画9億円に対する投資決定率
73.2%

- 信頼性評価設備の拡充
- 微細加工設備の能力向上
- 生産性向上施策の推進
- 需要状況を見極めつつ機動的に実施

新規採用決定者数
10名

年間採用計画に対する進捗率
34.5%

- 技術者、営業を中心とした採用継続
- 若手技術者の育成
- 技術伝承の強化
- 生成AIの活用による業務効率化と人材採用を並行して推進

技術力・顧客対応力の向上

受注機会の拡大

持続的な売上・利益成長

今期予想利益の確保と将来へ向けた成長への投資の両立を図り、中長期的な企業価値の向上を目指します。

受注・事業環境の状況

主要事業の受注環境は概ね堅調、外部環境の変化を継続して注視

信頼性評価事業

受注動向：堅調

+3.2%※

- 環境試験の受注が堅調
- 高倍率観察案件の受注が順調
- 真贋判定・故障解析の受注が好調
- パワーサイクル試験受注も順調

微細加工事業

受注動向：好調

+15.0%※

- レーザ加工の量産需要により堅調
- 高付加価値の試作加工を継続受注し好調
- 表面処理技術は基板素材評価の需要増加により好調

※当第1四半期累計期間のセグメント情報を、前第1四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成した情報

今後の注視事項

通商政策
米国関税政策等による
顧客の製品開発への影響

顧客開発投資
顧客企業における
研究開発予算の動向

市場環境
車載・半導体市場における
技術開発需要の変化

**足元の受注・引き合い状況はおおむね順調に推移しています。
外部環境を注視しつつ、技術開発および量産加工需要を着実に取り込んでまいります。**

事業部門の組織変更について

事業領域の親和性と顧客対応力の向上を目的に、2026年7月に事業部門を再編

前期（2026年6月期）		今期（2027年6月期）
信頼性評価事業 ● 分析解析センター ● 環境試験センター ● 電子機器評価センター ● パワーエレクトロニクス評価センター ● 研磨センター	**センター再編** 電子機器評価センターを分割・統合 電気試験機能 → 環境／電気試験センター パワエレ関連機能 → パワーエレクトロニクス評価センター	**信頼性評価事業** ● 分析解析センター ● 環境／電気試験センター ● パワーエレクトロニクス評価センター ● 研磨センター
微細加工事業 ● 微細加工センター ● 表面処理技術課 └ 基板評価チーム	**セグメント変更** 基板評価チーム 信頼性評価事業の環境／電気試験センターへ編入	**微細加工事業** ● 微細加工センター ● 表面処理技術課
その他事業 ● バイオ事業部 ● ゼロ・イノベーション部	**解散** バイオ事業部を解散	**その他事業** ● ゼロ・イノベーション部

再編により、試験・評価機能の連携強化、技術・顧客情報の共有促進、事業運営の効率化を進めます。

附録（注意事項）

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。

これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、必ずしも既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。

assists your "thinking"

Qualtec

Copyright(C) Qualtec Co., Ltd. All Rights Reserved.